参考資料 1-3

剥皮調査結果について

自然再生推進計画に基づく植生タイプ別調査地点のうち、柵外対照区（30m×30m）において剥皮調査を実施した。調査は、1.3m 以上の樹木について個体識別を行い、樹種、枯死状況、胸高直径および剥皮状況（６段階※）について実施した。なお、株立ちの場合は幹ごとに計測した。

ニホンジカの影響を把握するため、剥皮防止用ネットを設置していない樹木を評価対象とした。

各調査地点の剥皮度別の生存幹数を表１に、生存幹の剥皮度別本数を図１に示した。

また、生存幹のうち、前回調査時よりも剥皮度が上昇した幹の割合を図２に示した。

※剥皮度： 0(**剥皮なし**），1(25%**未満**），2(25%**以上**），3(50%**以上**），4(75%**以上**），5(**全剥皮**)

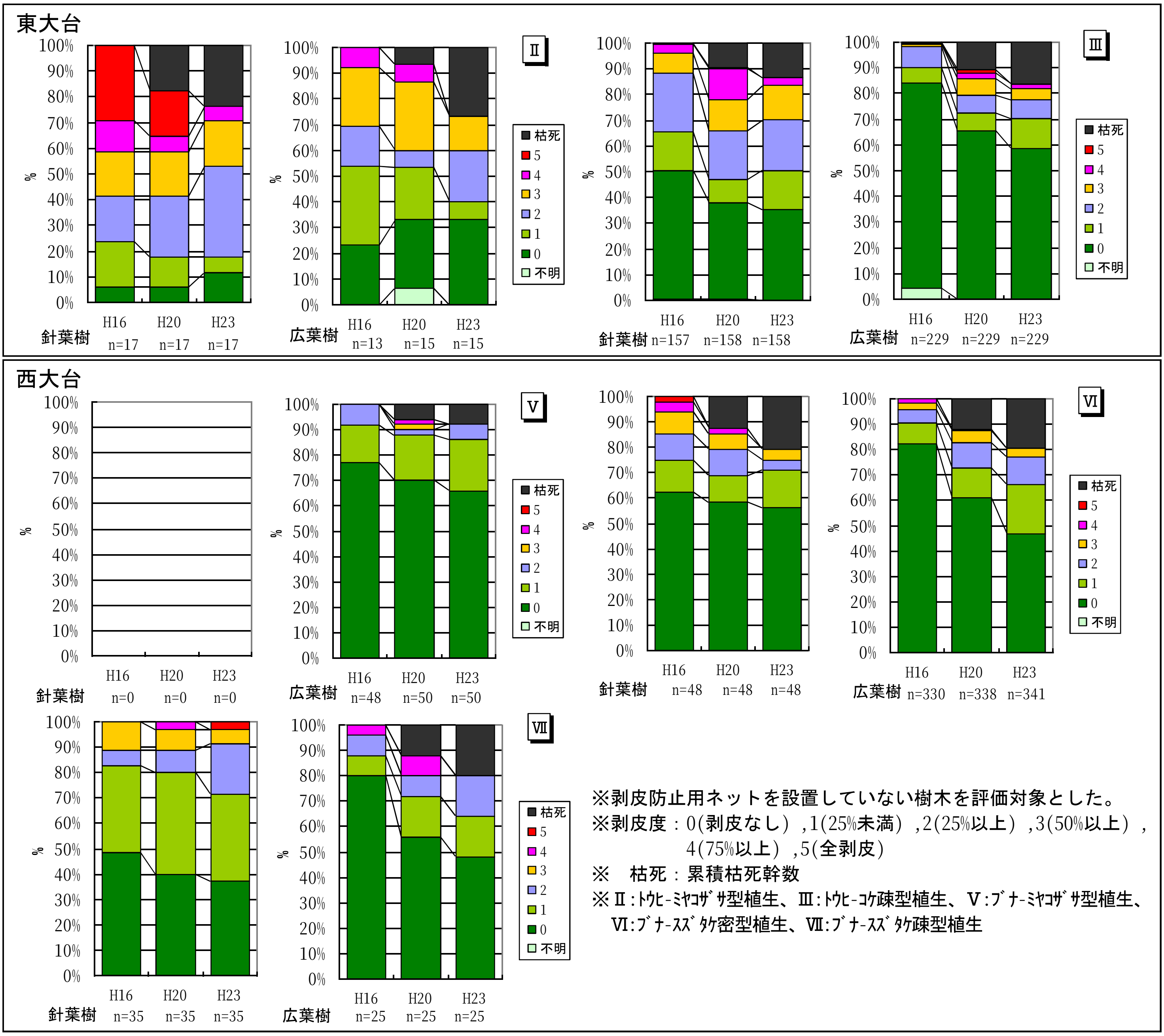
調査結果の概要は以下のとおりである。

- 東大台のトウヒ－ミヤコザサ型植生（植生タイプⅡ）、トウヒ－コケ疎型植生（植生タイプⅢ）では、針葉樹の生存幹が剥皮を受けている割合は非常に高く、今年度調査結果では、枯死幹を含む全幹に対して、植生タイプⅡでは約 65%、植生タイプⅢでは約 50%の生存幹が剥皮を受けていた。
- 西大台のブナ－ミヤコザサ型植生（植生タイプⅤ）、ブナ－スズタケ密型植生（植生タイプⅥ）では、針葉樹の生存幹が剥皮を受けている割合は東大台に比較すると低いが、ブナ－スズタケ疎型植生（植生タイプⅦ）では高く、今年度調査結果では枯死幹を含む全幹に対して、約 60%の生存幹が剥皮を受けていた。
- 前回調査時から剥皮度が上昇した幹の割合についてみると、東大台、西大台ともに剥皮度の上昇は継続していた。東大台では、平成 20～23 年度の期間内における新たな剥皮度の上昇の割合は、平成 16～20 年度の期間内に比べて低くなっていた。一方、西大台のブナ－スズタケ疎型植生（植生タイプⅦ）の針葉樹については、平成 20～23 年度の期間内における新たな剥皮度の上昇の割合は、平成 16～20 年度の期間内に比べて高くなっていた。

表１　生存幹の剥皮度別本数

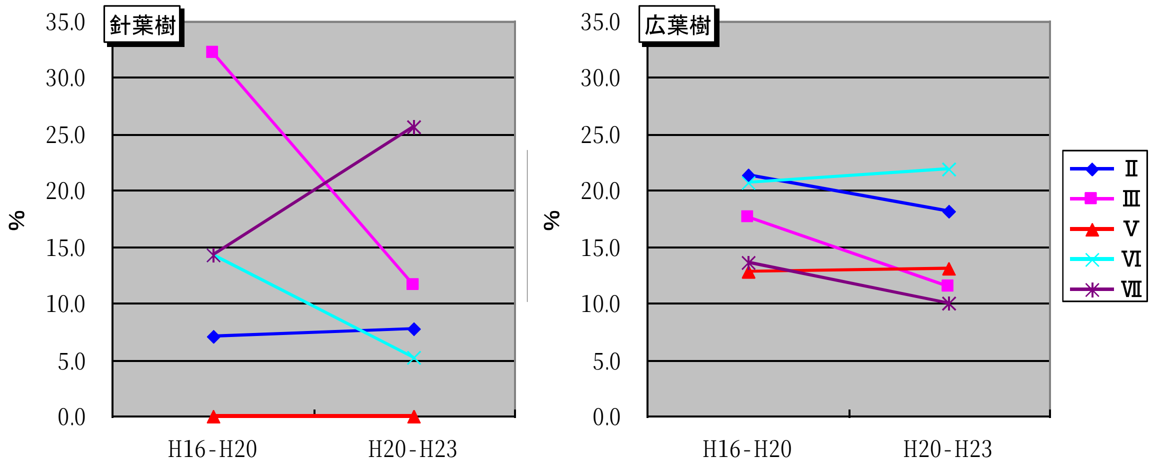
	植生ﾀｲﾌﾟ	区分	年度	*剥皮度* 5	4	3	2	1	0	不明	累積枯死数	合計
東大台	Ⅱ	針葉樹	H16	5	2	3	3	3	1	0	0	17
			H20	3	1	3	4	2	1	0	3	17
			H23	0	1	3	6	1	2	0	4	17
		広葉樹	H16	0	1	3	2	4	3	0	0	13
			H20	0	1	4	1	3	4	1	1	15
			H23	0	0	2	3	1	5	0	4	15
	Ⅲ	針葉樹	H16	1	5	12	36	24	78	1	0	157
			H20	1	19	19	30	14	59	1	15	158
			H23	0	5	21	31	24	56	0	21	158
		広葉樹	H16	1	1	2	19	14	182	10	0	229
			H20	3	5	14	16	16	150	0	25	229
			H23	0	3	10	17	27	134	0	38	229
西大台	Ⅴ	針葉樹	H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			H20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		広葉樹	H16	0	0	0	4	7	37	0	0	48
			H20	0	1	1	1	9	35	0	3	50
			H23	0	0	0	3	10	33	0	4	50
	Ⅵ	針葉樹	H16	1	2	4	5	6	30	0	0	48
			H20	0	1	3	5	5	28	0	6	48
			H23	0	0	2	2	7	27	0	10	48
		広葉樹	H16	0	5	9	18	27	271	0	0	330
			H20	0	2	15	34	40	206	0	41	338
			H23	0	0	11	37	66	160	0	67	341
	Ⅶ	針葉樹	H16	0	0	4	2	12	17	0	0	35
			H20	0	1	3	3	14	14	0	0	35
			H23	1	0	2	7	12	13	0	0	35
		広葉樹	H16	0	1	0	2	2	20	0	0	25
			H20	0	2	0	2	4	14	0	3	25
			H23	0	0	0	4	4	12	0	5	25

※自然再生推進計画に基づく植生タイプ別調査地点のうち、柵外対照区（30m×30m）の調査結果より作成。
※剥皮防止用ネットを設置していない樹木を評価対象とした。
※剥皮度：0(剥皮なし）,1(25%未満）,2(25%以上）,3(50%以上）,4(75%以上）,5(全剥皮)
※Ⅱ:ﾄｳﾋ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅲ:ﾄｳﾋ-ｺｹ疎型植生、Ⅴ:ﾌﾞﾅ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅵ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ密型植生、Ⅶ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ疎型植生



※剥皮防止用ネットを設置していない樹木を評価対象とした。
※剥皮度：0(剥皮なし),1(25%未満),2(25%以上),3(50%以上),4(75%以上),5(全剥皮)
※　枯死：累積枯死幹数
※Ⅱ:ﾄｳﾋ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅲ:ﾄｳﾋ-ｺｹ疎型植生、Ⅴ:ﾌﾞﾅ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅵ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ密型植生、Ⅶ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ疎型植生

図１　生存幹の剥皮度別割合の推移



※　H16-H20:H20 調査の生存幹のうち、H16 調査時よりも剥皮度が上昇した幹の全生存幹に対する割合
H20-H23:H23 調査の生存幹のうち、H20 調査時よりも剥皮度が上昇した幹の全生存幹に対する割合
※剥皮防止用ネットを設置していない樹木を評価対象とした。
※Ⅱ:ﾄｳﾋ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅲ:ﾄｳﾋ-ｺｹ疎型植生、Ⅴ:ﾌﾞﾅ-ﾐﾔｺｻﾞｻ型植生、Ⅵ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ密型植生、Ⅶ:ﾌﾞﾅ-ｽｽﾞﾀｹ疎型植生

図２　前回調査時よりも剥皮度が上昇した幹の割合